

## V 呼吸ケアチーム (RST)



活動を始めて約10年が経つ。原則として院内の人工呼吸管理症例と呼吸状態が不安定な患者を対象としている。医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、歯科衛生士が1つのチームとして活動している。(Multi-disciplinary & Multi-professional) 毎週木曜日の13時30分から各病棟をラウンドして、対象患者に対して主治医や担当看護師と話し合いをして、各患者により良い介入ができるように活動している。

28年度の統計では、1患者あたり延ラウンド数は平均2.9回であり、気道確保法は気管切開患者が増加している。このことは重症病態からの人工呼吸器ウィーニングの依頼が増加しているのかもしれない。年齢分布は患者年齢構成を反映して、やはり高齢にシフトしている。酸素療法の手段としてネーザルハイフローは非挿管の患者でも陽圧を維持できる療法として一般化してきている。

V-1 28年度ラウンド状況

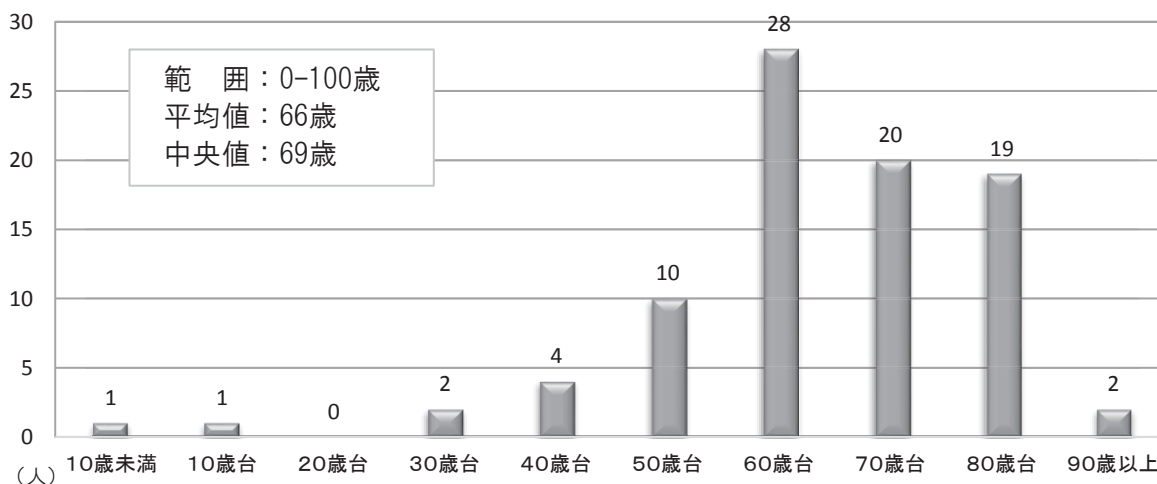
ラウンド回数(回)	人数(人)	回×人
1	19	19
2	31	62
3	10	30
4	13	52
5	5	25
6	4	24
7	3	21
8		
9		
10	1	10
11	1	11
12		
13		
合計	87	254

V-2 28年度ラウンド病棟 (介入時の病棟)  
(件)

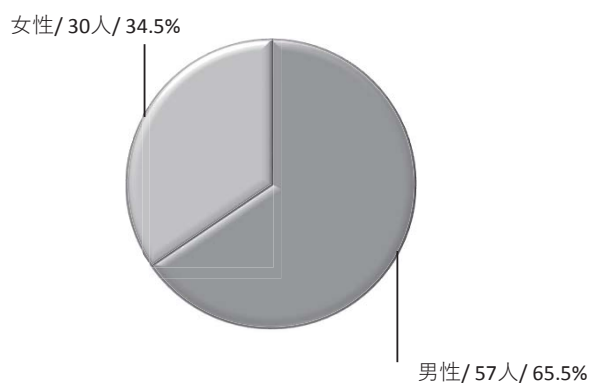
区分	28年度
E I C C	57
H C U	9
10-5	4
11階東病棟	3
7階西病棟	3
12階病棟	2
8階西病棟	2
10-4	2
10-8	2
その他	3
合計	87

1患者あたり延ラウンド数	2.9回
--------------	------

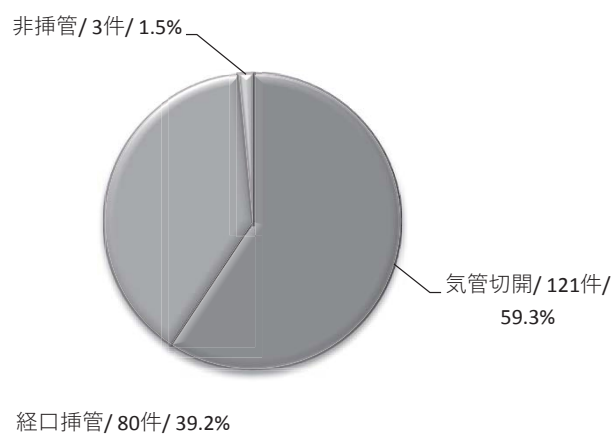
V-3 28年度年齢別集計 (87人)



V-4 28年度性別集計(合計87人)



V-5 28年度気道確保の方法(合計204件)



V-6 28年度人工呼吸モード

区分	介入時 (件)
A/C/APRV	43
BIPAP/SIMV	101
CPAP	53
NPV	4
NHF	13
人工呼吸器なし	5
合計	219

- ※A/C/APRV : 補助/調節換気(強制換気のみ)
- BIPAP/SIMV : 2相性陽圧換気(強制換気+自発呼吸)
- CPAP : 持続陽圧呼吸療法(自発呼吸のみ)
- NPV : 非侵襲的陽圧換気法
- NHF : ネーザルハイフロー